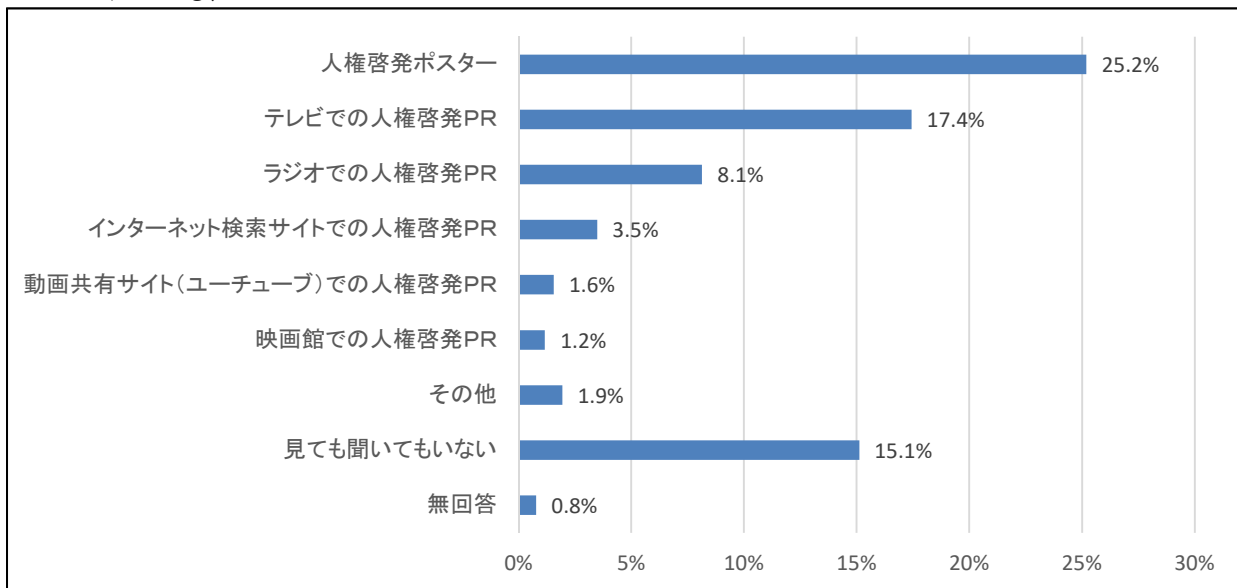


平成30年度第6回 県政モニターアンケート結果

人権同和对策課 啓発係
(TEL 099-286-2574)

テーマ : 人権啓発活動について
調査目的 : 県では、県民一人ひとりの人権が尊重され、誰もが安心して暮らせる心豊かな社会の実現を目指して、様々な取組を進めているところであり、今後のより効果的な人権啓発施策の推進に役立てるため
調査時期 : 平成30年9月
調査対象者数 : 200人
回答者数 : 128人 (64.5%)

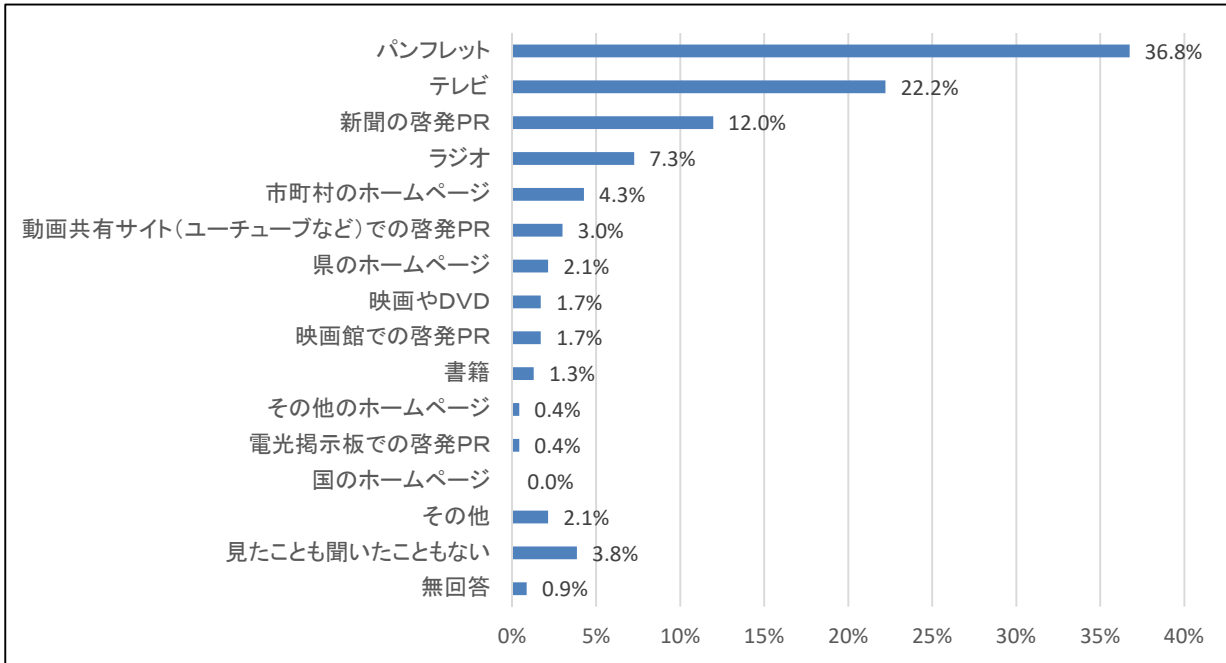
問1 県では8月を「人権同和问题啓発強調月間」として、各種媒体を活用した様々な人権啓発活動を行いました。次のうち、今年8月に見たり、聞いたりしたものはどれですか（いくつでも）



問1の「その他」(一部抜粋)

- ・ 県広報誌
 - ・ 市の放送
 - ・ 民生委員の研修会
- など

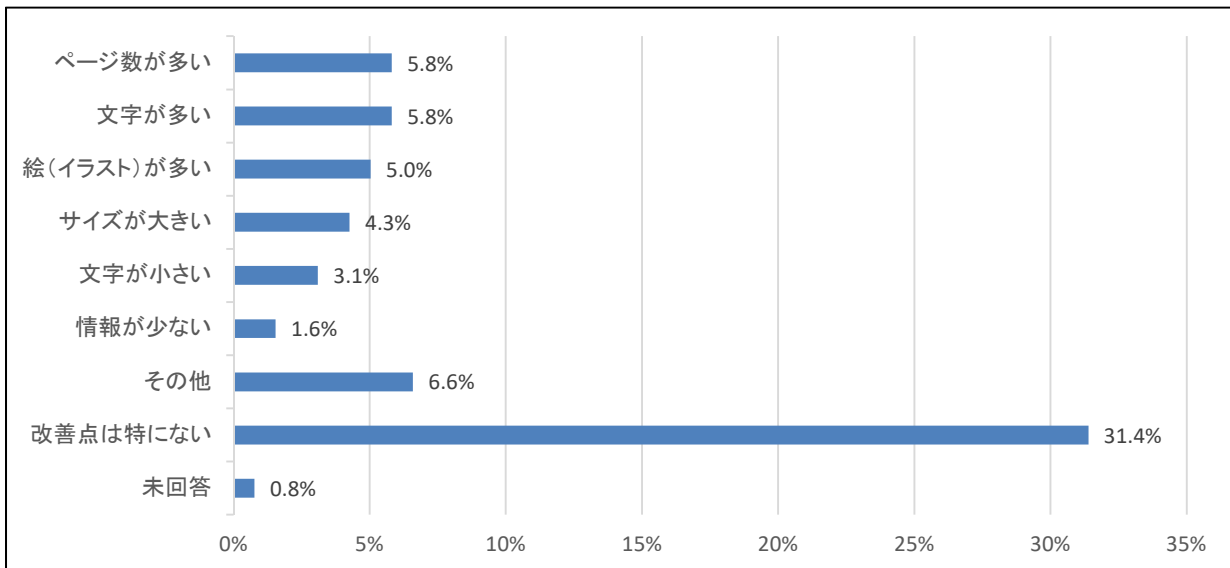
問2 人権啓発活動のうち、これまで、見たり、聞いたりしたことがあるもので印象に残っているものはどれですか。（3つまで）



問2の「その他」（一部抜粋）

- ・星塚敬愛園に訪問させていただき、語り部さんの生の声を聞くという経験
 - ・人権擁護委員の方からの情報提供
 - ・職場でのDVD研修
- など

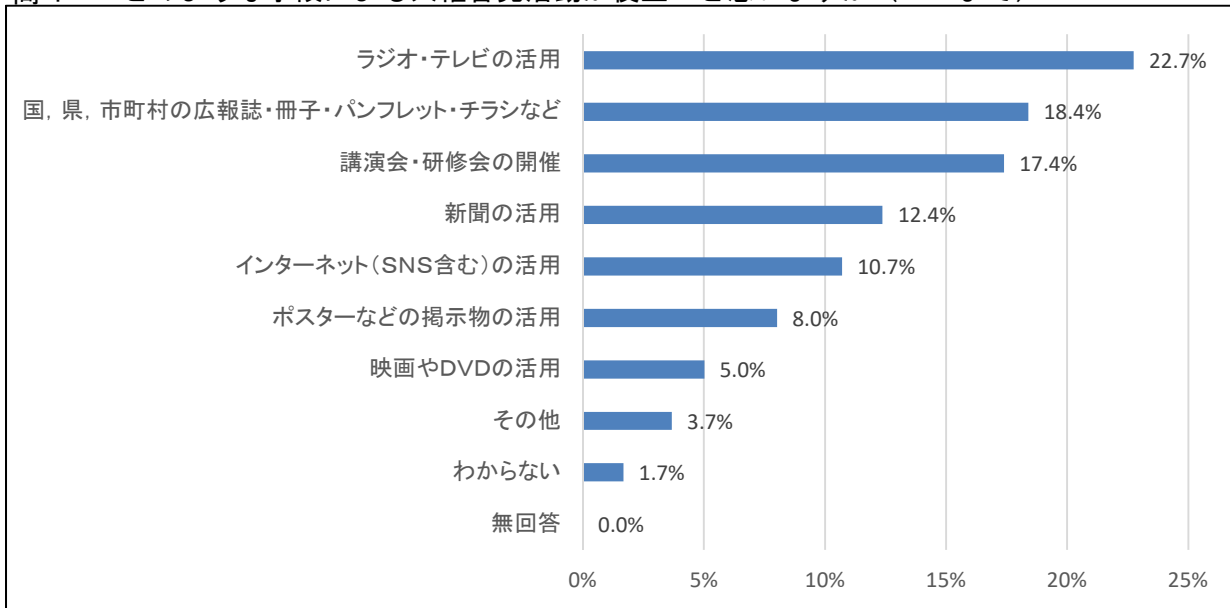
問3 県では人権啓発パンフレットを作成し、講演会や研修会、イベントなどで配布しています。同封している「違いがあるから世界はカラフル」について、改善点をお聞かせください。（いくつでも）



問3の「その他」（一部抜粋）

- ・表紙からは何のパンフレットかわかりにくい
 - ・できるだけ県内のたくさんの人にいきわたるように配布してほしい
 - ・内容をもう少し分かりやすくしてほしい
- など

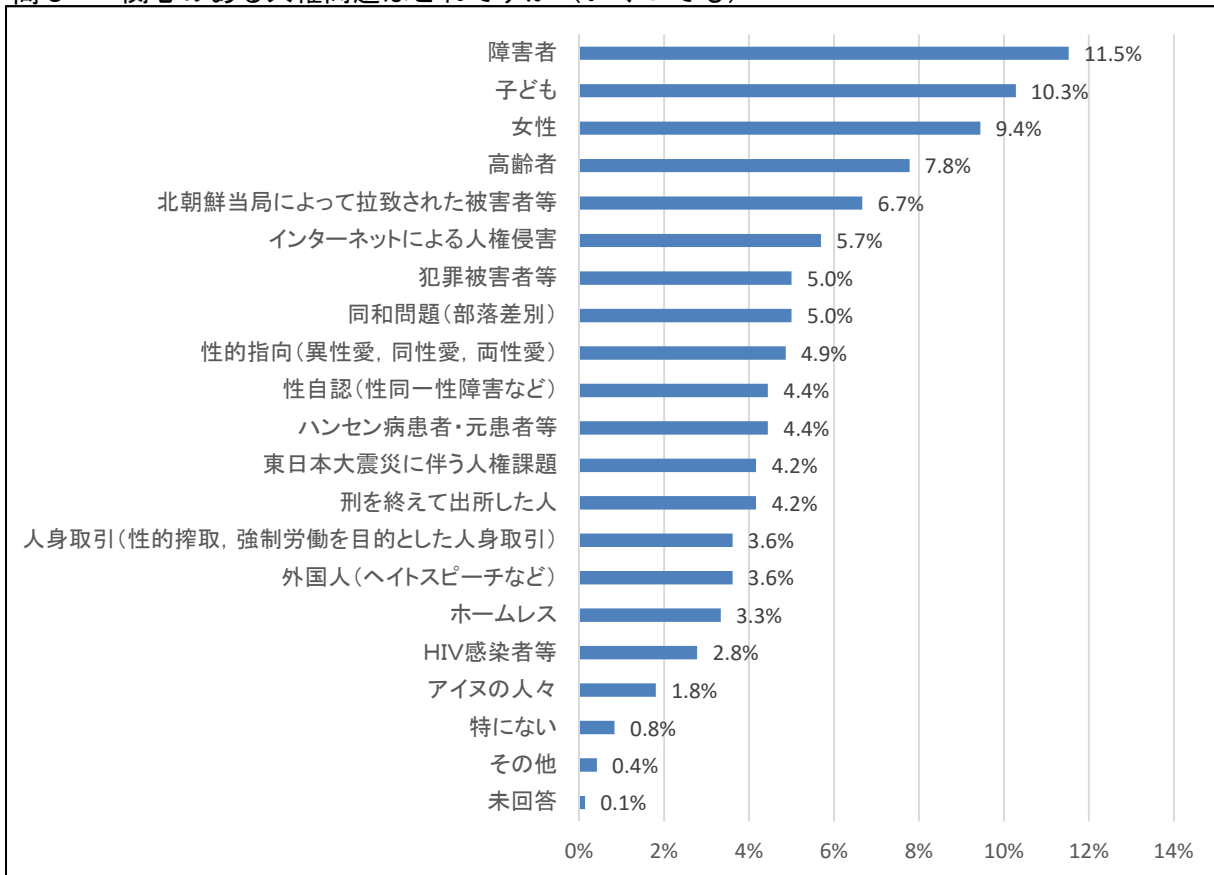
問4 どのような手段による人権啓発活動が役立つと思いますか（3つまで）



問4の「その他」（一部抜粋）

- ・自治体での体験型ワークショップの開催
 - ・職場で必要がある（義務づけられている）と参加しやすい
 - ・人権被害を受けている人たち自身による活動
 - ・学校、教育機関での人権教育
- など

問5 関心のある人権問題はどれですか（いくつでも）



問5の「その他」（一部抜粋）

- ・いじめ
 - ・体型を見て評価する
- など

問6 様々な人権問題について、かねて考えておられること、ご意見やご要望がありましたら、お聞かせください。(一部抜粋)

・鹿児島県だけでなく、もっと全国的に小学校の授業から様々な人権問題について、正確な情報を提供すべきだと思います。人間って、自分があまり知らない事に、偏見を持つものなので、もっと理解し易い仕組みを、国をあげて作らなければいけない時期に今来ていると思います。

・自分がそうされたら、どう思うか。どうなるか。という事を考えると差別したりすることはなくなるのではと思いますが、しかし、そう簡単に解決できないのが今の現状と思います。その立場に立って、どんな事も考えられるように一人一人がなれると、今ある問題もたくさん解決できる気がします。どんな教育が必要なのか？今の教育でも力を入れているのを知っているの、なかなか難しい問題だと感じています。一人一人がシンプルに考えて行動にうつせるように願います。

・色んな人間が居て良い。ただ、自分と違う「考え」「もの」「人」を少し遠ざけてしまう事もある。この心理はどこからくるのか？そこを自分が知る事。そして、無知である事が恐怖を生み、差別につながる。まずは、知る事から、小さい頃から、ディスカッションの授業を入れて、色んな考えの人が居て、色んな境遇の人が居る、そして受け入れていく教育も必要だと思う。日本は右向け右！！って感じだから、若い時、学生時代は特に。

・人の数と同数の人権があり、それはそれぞれ異なっているもののではないのでしょうか。それぞれの人に、その都度、多様な人権意識が発生し、大なり小なりの問題を持っているということ、みんなで認識しあい、「人権問題」が少なくなって社会に向かっていくことができればいいですね。

・長い人生の中で培われた考え方を変わるのなかなか難しいです。これからの若い方々がお互いが思いやりをもって生きていける様に学校教育はもちろんですが、社会の中の雰囲気を作ってほしい。

・同和問題など、正しい歴史、問題点を認識させることが大切だと思う。

・自分や家族が他の人々から差別的偏見をもたれたり、日本人が外国の人々から差別を受けたりしたら、どう感じるかを私たち一人一人が相手の身になって考える事が大切だと思います。違いがあるからこそ認め合い、助け合っていくとすばらしい世の中になる事を我々大人が模範となっていくと自然と次世代の青少年達にも伝わっていくのではないのでしょうか。

・人権問題に関する講演、研修会の回数を鹿児島市内だけでなく、もっと地方、郡部においても開催する。人権問題への県民の意識を高めるには「学習の機会」を増やすことだ。

・人権啓発運動は学校で職場で、運動期間を決めて取り組んでいますが、時代の流れによって問題が変わってきています。「いじめ」が根本にあります。基本は家庭でのしつけ、学校での教育だと考えます。是々非々で接していくことが大切と考えますが。

・九州は男尊女卑がまだまだたくさんある。鹿児島でも根強く残っています。女だから遅くまで働くな、家事をしろ、男に育児を押しつけるなど言われます。鹿児島から女性が活躍できる環境作りをしてほしいです。

・地方に行くほど、差別意識が強いと感じることがあります。古い体制や考え方が全て悪いとは思いませんが、知らないうちに「それが当たり前」となっているところがあるように感じます。教育でかえられるのかは不明ですが、少なからず影響していると思います。

・この歳になるまで、身近な問題として、人権に関わることに遭遇する体験がなかったこともあったりして、自分自身のこととして、深く考えることがなかったように思います。ただ、拉致とか子どもや高齢者の虐待などの報道を見たり聞いたりすると、心が痛みます。LGBTのことなど、この広報で知る機会がありましたが、一人の社会人として、心と気持ちの中を広くして、現代社会を見つめなおさねばと考えさせられました。有難うございます。